

プラハ（チェコ共和国）で生まれたJanaBouškováは、その独特の芸術的資質のおかげで世界で最も権威のあるステージに招待されている世界的に有名なハープ奏者のエリートカテゴリーに属しています。世界の評論家は彼女のパフォーマンスを同様に評価し、特に技術の息を呑むような完璧さ、見事な精度、機知に富んだ存在感、深さ、空気のような感度、そして彼女の表現力を強調しています。

JanaBouškováは生涯（USA、イスラエル、ドイツ、ベルギー、フランス、イタリア）に合計8つのハープコンクールに参加し、常に最高の賞を受賞しました。1992年の米国国際ハープコンクール。

JanaBouškováは、ソロハープに注意を払わなかったチェコの作曲家による作曲のいくつかのトランスクリプションを作成しました。2021年に、これらの曲はスプリフォンによって彼女のソロCD My Homelandでリリースされました。ここでは、SmetanaのVltavaの新しく適応されたバージョンに加えて、My Homelandの他の2つの部分、VyšehradとŠárka、American Suite、Dvořák's New WorldのLargoがあります。交響曲とヨセフ・スクの夏の印象。

JanaBouškováは、一流のオーケストラとのソロ演奏や、世界中の最も有名なコンサートホールでのソロリサイタルで演奏します。彼女のソロキャリアに加えて、JanaBouškováは教育活動に従事しています。2019年9月以来、彼女はロンドンの有名な王立音楽大学の教授であり、2007年以降、プラハの芸術アカデミーで教鞭をとっています。彼女は15年間、ブリュッセルの王立音楽院で2005年から2020年に、またプラハの音楽院で1993年から2012年にかけて19年間非常に成功した教授でした。

2005年以来、JanaBouškováはチェコフィルハーモニー管弦楽団のソロハーピストです。彼女は定期的に世界的に有名なハープ会議やシンポジウムに参加するよう招待されています。これには、国際ハープコンクールの審査員のメンバーシップや世界中でのマスタークラスの実施が含まれます。1999年、彼女はプラハで開催された第7回世界ハープ会議の芸術監督、プラハ芸術アカデミーおよびチェコフィルハーモニー管弦楽団の芸術評議会のメンバーを務めました。彼女は現在、修道院音楽祭とカンシオネタプラガ合唱団のパトロンです。

JanaBouškováは、チェコおよび国際的な出版社、ラジオ、テレビ会社向けに20枚以上のCDを録音しており、現代の作曲家による約20曲が彼女のために作曲されています。